



# 近江のこころ

## 中小企業課題と挑戦

### 1 「死の谷」を越えて

苦心の未実用化の見やサービスを開発した通しが立った新商品時期に、設備投資などに、大量の受注が舞いこむ。大量の資金が尽きた。思えた直後、取引は消滅。一転して巨額の負債を抱え込む状態に陥った。

「死の谷」と呼ばれている。大木さんは当時、知人からの融資でなんとか経営難を切り抜けたが、そのまま倒産してしまつた企業も多いが、民間信用調査会社の

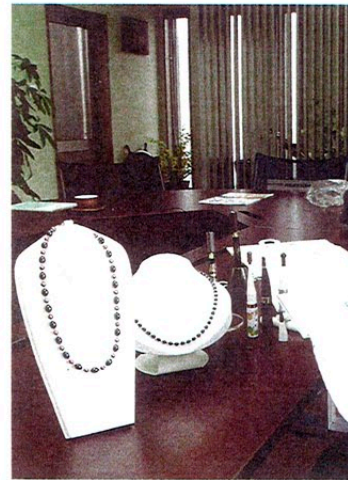
「ヒット商品を作り出しても5〜10年たてば古くなり、経営危機は必ず訪れる。回避するには、成功に満足せずに二の矢三の矢を次々と放ち、それを支えてくれる人とのつながりを広げていけるかに」

十数年前、大津市中野の炭素製品研究開発会社「大木工芸」は、炭素粉末を混ぜ込み、有害物質の吸着能力が高いあぶらとり紙の開発を進めていた。機能に目を付けた仲買人が百万枚もの販売話を持ち掛け、大木武彦社長(み)は商談に応じた。

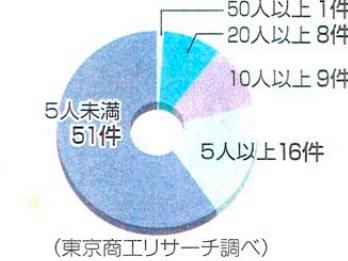


数度の経営危機を乗り越え、さまざまな新商品を市場に出してきた大木武彦社長＝大津市中野で

創業以来四十年以上社を切り盛りしてきた大木さんには、これまで幾度となく経営難が訪れた。既に多額を借り入れている金融機関



2013年に倒産した県内企業の従業員規模別件数



県内企業の99%を占め、県経済のけん引役を担う中小企業。新規事業参入への障壁や人材不足、海外からの企業進出など、経営環境を取り巻く状況が厳しさを増す中、山積するさまざまな課題と、乗り越えてきた企業の努力を取り上げる。

# 開発に知恵と工夫を

資金力が少ない中小企業では、新しい製品

からは融資を望めない状況が多かったが、一つの製品に偏重せず、逆にさまざまな製品を並行的に開発することでリスク分散し、切り抜けてきた。

新規事業に乗り出す中小企業を支援する制度は、国や自治体がさまざま設けているほか、起業家に資金を供給して育てる投資会社「ベンチャーキャピタル」が注目を浴びる。

同社の〇八年の全国調査では、研究開発に「ベンチャーキャピタル」が注目を浴びる。だが、大木さんは企業側の体質こそ重要だと指摘する。

「ヒット商品を作り出しても5〜10年たてば古くなり、経営危機は必ず訪れる。回避するには、成功に満足せずに二の矢三の矢を次々と放ち、それを支えてくれる人とのつながりを広げていけるかに」

創業以来四十年以上社を切り盛りしてきた大木さんには、これまで幾度となく経営難が訪れた。既に多額を借り入れている金融機関

県内企業の99%を占め、県経済のけん引役を担う中小企業。新規事業参入への障壁や人材不足、海外からの企業進出など、経営環境を取り巻く状況が厳しさを増す中、山積するさまざまな課題と、乗り越えてきた企業の努力を取り上げる。

大津支局
大津市京町四丁目
(〒520-0044)
077(523)3388
FAX 077(524)4447
彦根支局
彦根市古沢町661の2
(〒522-0007)
0749(22)1234
FAX 0749(24)5112
(広告)(23)4018
長浜通信局
0749(62)0436
FAX 0749(62)0437
近江八幡通信局
0748(33)3456
FAX 0748(33)3416
甲賀通信局
0748(62)0347
FAX 0748(62)0459
東近江通信部
0748(22)0331
FAX 0748(24)0702
草津通信部
077(562)0620
FAX 077(565)9359
木之本通信部
0749(82)3050
FAX 0749(82)4821
ニュースは上の電話へ
読者センター
052(221)0800